

## 比較文化 II [第 1 回]

丸山純 (jun@site-shara.net)

### ●前期の反省と後期の進め方

#### ◆異文化理解を進めるための二つのアプローチ……前期は基礎編

知識……表面からではわからない、裏側の事情を理解する

視点……ほんのちょっと視点をずらすだけで、違う世界が見えてくる

前期の反省……詰め込みすぎた？

もっとも大切なこと（原理）を強調しすぎて、現実を伝えきれなかった

流れを重視し、順序よく語ろうとしたが、欠席すると意味がない？

#### ◆後期は応用編

シラバスの要素（テーマ）は落とさずに、語り口を変えて、応用編として組み立て直す

シラバスの授業計画……民族固有の音楽のあり方 / 世界の民族問題と紛争地 / イスラム圏が直面する今日の問題 / 9.11 と「テロとの戦争」を見直す / 部族制社会の実態と近代化 / 「ワールドミュージック」の誕生 / グローバリズムのさまざまな問題点 / 移民問題と多文化共生 / マイノリティと排外主義 / カラーシャ族の冬至の祭りと音楽 / 地球環境と資源紛争 / 日本文化の特質

前期の歴史学、文化人類学的視点に加えて、民族音楽学的視点も取り入れたい

前期に語り残した点、誤解を与えている点などを再度取り上げる

前期より、現在の世界状況に近づく

#### ◆平常点+期末レポート+エクストラポイント=成績

毎回の授業で書いてもらうコメント票を重視（1～5段階評価+オマケ）

平常点が6割、レポートが4割

とにかく連絡をとること。なんらかの代替処置を考慮

### ●世界の音楽めぐり・中級編

#### ◆第一の国・スコットランド

スコットランドの「グレート・ハイランド・バグパイプ」

スコットランド固有の楽器ではなく、東（元は西アジア）から流入

13～14世紀に現われる

歌と踊りの好きなスコットランド人の踊りの伴奏に

スコットランド人のアイデンティティ

英国併合後、スコットランド的なものは禁止。演奏できず

やがてスコットランド部隊が英国軍に編入され、軍楽に

兵士を鼓舞し、敵を威嚇する戦いのための音楽

もともとは牧畜文化の産物……革袋 bag+ 笛 pipes

口・尻尾・脚などに笛を挿す

スコットランド以外にも広く分布

西アジア、東ヨーロッパ、ロシア周辺など

#### ◆第二の国・アイルランド

アイルランドの「Hunter's Purse」

二拍子の早いテンポの踊り「リール」

メロディオン（鍵盤のないアコーディオン）

アイリッシュダンス

セットダンスとステップダンス

リバーダンス……1994年に結成

セットダンスから発展 → アイルランド音楽・踊りの一大リバイバル

下半身中心の踊り……英国に禁止されていた時代に隠れて踊っていた

窓から見ても、踊っているのがわからない

ステップダンス……米国に移民が渡り、のちのタップダンスに

## ◆第三の国・ロシア（ソ連）

ロシア民謡の「カリンカ」（イワン・ベトロヴィチ・ラリオーノフ作曲）

西欧近代音楽＋農村音楽 → 民謡風大衆音楽

ロシア「民謡」といわれながら、本当の意味での民謡ではない

ロシアの弦楽器「バラライカ」……ボディが三角形

19世紀末にアンドレーエフたちによって改良・完成。

3弦（ミ-ミ-ラ）／1・2弦はナイロン、3弦は金属

カザフスタンなどで使われている「ドンブーラ」が原型

ロシア民謡を「利用」する「赤軍合唱団」……ソ連軍（赤軍）に所属

結束・団結・娯楽……民衆に対するアピール

社会主義のイデオロギーを説く

社会主義体制の賞賛／革命国家の勝利 → 革命意識を教育

民族主義的な音楽 → 愛国主義的な音楽

「ポーリュシカ・ポーレ」（1934 ヴィクトル・グーセフ作詞、レフ・クニッペル作曲）

赤軍兵士の戦いの歌……軍歌

草原 草原よ 広い草原よ／英雄達が草原に行く

日本ではまったく異なる歌詞になって大ヒット（仲雅美 1971）

日本でも流行ったロシア民謡

60～70年代に日本で流行……思想的なもの・社会主義へのあこがれ

ももとはシベリア拘留者がもって帰ってきたらしい

歌声喫茶でも愛唱された

長調の曲もあるのに、日本人好みの短調ばかりが有名に

コサックダンス

コサック兵……帝政ロシアの先兵としてシベリアやカフカスの征服に駆り出された

列強との戦争でも最前線に立った騎兵軍団

## ◆第四の国・中国

中国の弓奏楽器・二胡……戯曲の伴奏が主体であった二胡を独立した楽器に

1920年代に流入した西洋音楽で、新しい音楽や奏法が開発

西アジア起源の「ルバーブ」から発展

ニシキヘビの皮を張る

馬の尻尾の弓を2本の弦の間に挟んで演奏する

日本の三味線と胡弓

## ◆第五の国・イラク

イスラーム宮廷で盛んに使われたイラクの弦楽器「ウード」

洋梨型／曲がり首／4弦＋ドローン弦／フレットレス

14世紀頃、微分音を出しやすくするためにフレットレスに

ウードから、ルネッサンス音楽で活躍するリュートへ

中国では琵琶（ピーパ）、日本では琵琶に

フレットが残っている時代に伝わる

## ◆第六の国・スペイン

スペインの「フラメンコ・ギター」

ロマ（ヒターノ）の音楽

ロマ（ジプシー＝エジプシャン）は、インド西部のラジャスタン地方が故地

西アジアからエジプト、北アフリカを北上して、地中海を渡り、スペインへ

もう一つの流れが、東欧～中欧～西欧を通り、15世紀にピレネー山脈より南下

アンダルシア地方に定住

全世界には600万人～800万人／スペインのヒターノは約100万人

ウマイヤ朝（661～750）以来、スペイン南部はイスラームの国に

後ウマイヤ朝期（751～1031）、独特のイスラーム文化がコルドバ中心に花開く

グラナダ陥落（1492）で、イスラーム教徒は欧州から追い出される

アンダルシアのヒターノがムーア人（イスラーム教徒）を置く

イスラームとヒターノ音楽の融合 → 今日のフラメンコへと発展

バグダッドの音楽家・ジルヤーブ（789～857）がスペインにウードをもたらす

疎まれてコルドバに追放後、宮廷音楽家になり、音楽学校を設立

アンダルシアの文化大臣として改革を推進 → ウードの改良

ギター系（ローマ人のギターラとウード系（ムーア人のギターラ）の共存

フラメンコ……ももとはロマ民族の迫害の模様や苦しみの歴史を歌う

→ 現代はショー化して世界的に有名に（歌／ギター／手拍子／かけ声／舞踊）